

大將盛典

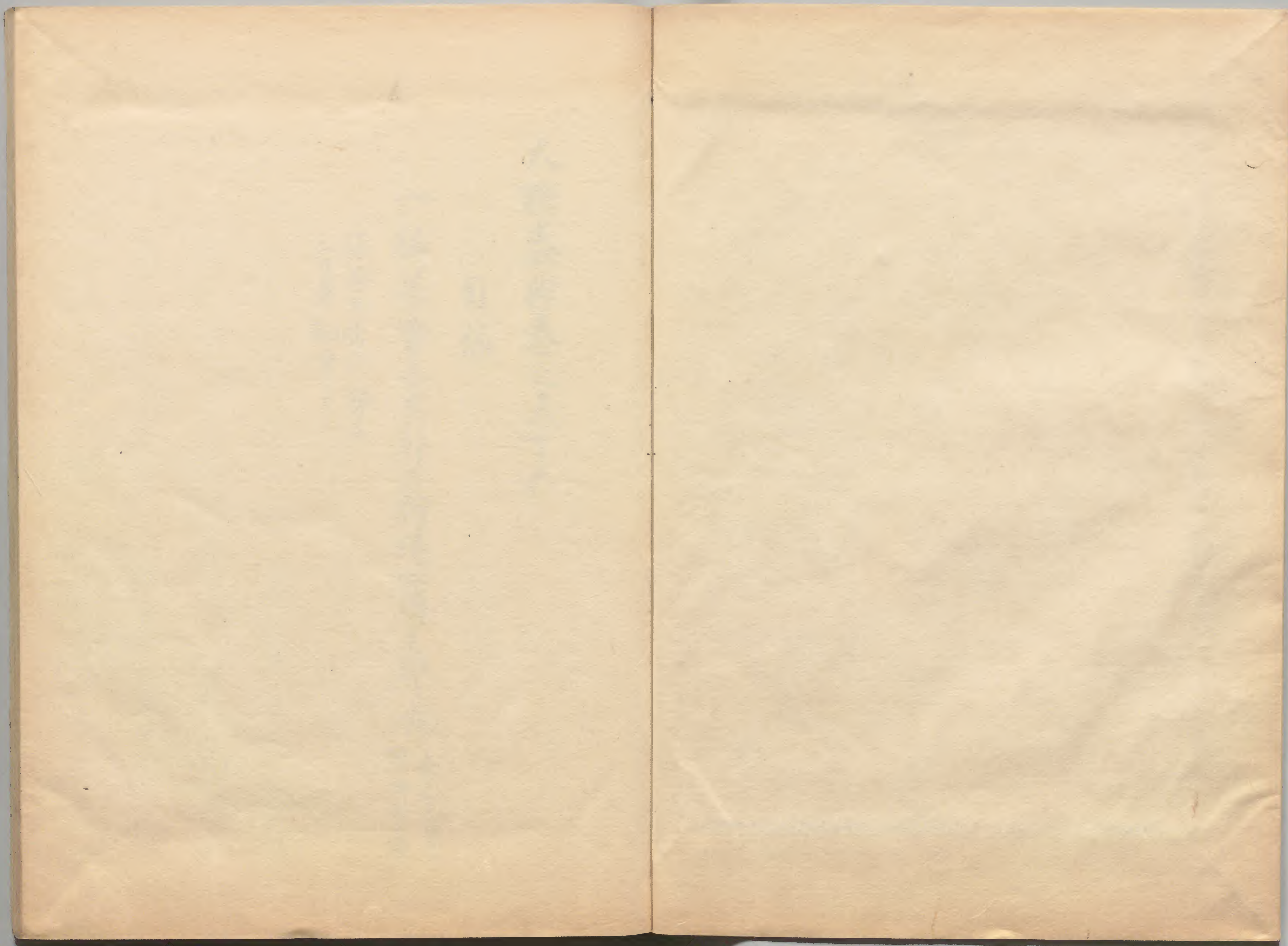
九十五

和書門		
二七八八二號	八五函	一九九冊

內閣文庫		和書	
二七八八二號	八五函	一九九冊	五架

內閣文庫	
番號	和 27882
冊數	199 (97)
函號	153 225





大將盛典卷之九十五

目錄

一 騎馬勢子其外匠將場心得之部 九

嘉永度之内
津右之市

騎馬在步仍勢子
三石番勘方之一



大將盛典卷之九十五

騎馬勢子其外正將場心得之部九

淺草文庫

○嘉永元戊申年十一月正書付

逐駭騎馬勒方心得

一 冲小性組之拾五人正書院番三拾五人正番

二 拾人部合百人也右下組合式拾五人宛組

合三相成右四組合之内は正月舟正使番之内

一 下組合は式三人宛加り世話一校以事

一 目付は使番者に場入口より 御目見は御馬
仕為留 御巡見は行列より供立乗りの内馬
上仕一番二番武番四番より中頃より紫出より
照と拍子より紫通名請取り組合場より在
紙事

一 御番方より 御成前より請取り場より在紙
馬上仕可存在事

一 始は相場より旗炮を聞列率より立猪麻出

振子に随ひ振子内一盃に逐然御猪場内より逐然
振一仕より在組合浪働追込に計より在在
麻より振子次より在組合より在在振子より
武組合より在在組合より在在組合より在在追込に中
但麻を取巻紫包より後より在在事より在在綱
内より追込に計より在在事より在在事

一 百人組は持込先より立切の後より了り逐掛に振子
より得る立切居り前より在在人数より在在通より

若くは古網内之麻多し其後之進は
内之麻外は不淺き其後之進は可
以事

一古網内之麻多進込は節駈馬系込古網
内之切程を以て其立切を淺出は可
有は以間古振るは進駈馬古網迄居合
之の駈馬を淺は麻古網外は不出振歎道
之口之系切程を一然は外後之誠之時取

見討之事は強而親定之義を以て事
一拍子之可相湊時を以て進中留まは麻
左右は淺は死又者騎手を押破は首を強
成る急之系切一十事

一進駈騎手之儀を始終麻逐込は義專一
得た品之者 而若くは有は以間麻捨
儀義用意被一口附百姓之為持並一十事

一進駈騎馬 鞭合

一、組合

握房 白

二、組合

同断 赤

三、組合

同断 黄

四、組合

同断 緋

右房之儀、麻糸成とも木綿糸成を大十、左房

熨色分は得者宜安は間控へ出来は格可致

此事

両庄番 步行立勤方心得
大庄番

一番頭並支庄番組既立庄場入口より 御目立庄

御馬立為 留 御巡見庄行列に御供立並

以内馬上仕清右之方庄馬腹を繋扱 御立場

後口分庄所より一程御大庄番組既立庄場の庄

御成前組中召連屯下にお諾一程庄

両庄番方より御成前各屯下にお諾一程庄番方

より歩行立ると一統竹柄へ捨持系一程庄

一、大庄番頭組既立馬上より頭を麾を指系

廻一若引致此事

一両は番匠同組匠を麾を指馬上に乘廻若引致此事

一共力同心を先達を叱所は若を並置して後立並は相寄るは細際白詰寄り若も右に通む竹杖持可中事

一清相寄りは貝形りは一番は大は番匠若寄りは右拍子と左鼓を合を並其右鼓を懸

人数繰出に相用一組合出拂は近打中寄り

一文字に立並其後白麾振りては相寄る

大は番方急と左鼓を為打は細は詰寄り

中は是を見交りては書院方ニッ拍子と左鼓

も叱下を押出に中寄り立揃に在立其

後白麾振りて大は番匠麾を以若寄り

叱下は引取に中は時書院方急と左鼓

も大は番方と後白詰寄り引取りを待居り

二相心得跡不透格入替り正細際白諾可右働
此正書院方急々右教打侍衆此時速々此小姓
組方三ッ拍子右教為打叱而と押出—中寄
立探其後白魔振此正書院番改魔を
掛引此正小姓組方急々右教入替り正細際
白諾右働大正番方叱而と押出—中寄立
探何篇前書々通お心此正右働侍衆
入替り進退い々—相働—此正御貝此右働

を初め計有々其後を白魔正右働計有々事

但正細口押諾此場合正細と拾口正間隔此

正踏留 踏留此者
芝切盡此 此所為相働可中此且又

正番方五人程々組合せ至々五人立並此場

合正細返を持場と致麻出此其持場

之五人進々持場限り突留—此他此持場

麻行此其不持場々五人進々相働家前

此五人元々備正退々変々卒麻突留此

筋者之云々

右之通心得時宜之勢想然も一技養も其場之
既心得可有之事

一 麻押出之口は細之四之形取之勢又六之形と
以て一中之形を其内を以て変る働入中留を以事

一 押出馬之形を以て白吹貫白布は平沙馬之
先は持以留此は指子見交以好もは細は指働
居以は番も引取中勢は押出之形在在は番

方も其候扣在在は細際之働も止一中之形を以て後白
魔振以て初の如くは細は代へは相留は進退
技可相働以事

一 方鞍為打以候は番は技以番は六番方は書院方
も六組之内先之備は番はは小性組者末之備は
番は技養は事

一 市場海は相留

市場始は相留と同断

大正番組留書示性組
留書示使番留書

○嘉永元戊申年

三番隊は右相圖

一 押正面坂中程高押貝は右相圖有るは一番後之
 番隊は右教役は右相圖有るは拍子三打但初ノ静
 三番隊一同其下高掛魔然し得る六組一同
 纏振之先之組隊五人系出一其次は番流
 屯下之右四行三立居は右右二行組隊之跡

一 自其次屯中二行自其次は組隊五人其跡は
 番隊之次共力同心押出不但圖有屯新屯中寄
 与中程分左右は同キ此事但圖有中寄は
 押詰芝切に通一文字之立並拍兵左下但圖有
 一 白魔一文字振之右相圖高一番備之番隊は太
 敷役は右相圖高急之太敷亦比之但子かけ
 魔番隊一同其下高掛得る右之形は押
 一 右相圖は押詰芝切に通一文字之立並

捨る鞘を取右に在る組匠二人の番流
の後口は廻り後口は居り組匠と並ひ在る
但之國有古く通古細隙は押指猪麻出次第又
組匠構り円計突留て中事群々想熟
を引ても有るは得共相尋むる円と又組匠
可働事突留り者も殆く札を附り上り共
と札投盡し事

一 大匠番方急々太敷る古細隙は押出り此
匠書院方二つ拍子太敷る此下中事は押指
相尋在り

一 白麻匠相尋る古番流一文字は立在り左匠は
番匠系出り此得共力同心在り二行は立在
跡は引續番匠正面を向引麻然り得る
一同捨る鞘を惣東ノ方古細横手に附纏
先は立寂番流下中押出り此若く通二行は成
古細東ノ方通り中事は下り東通りと引

組く此下之後口分入如家初備立九大古番方は
細隙を引取らるるは書院方急ぐ大教にて
中寄ヲ押おし細隙は押詰働之事は時
頃小性組方ニッ拍子方教する也下分中寄は押
詰居る也

一 白鹿は相寄るるは書院方引鹿を是を大古番方
引取ら道筋を二行ニ成引九大古番方也下
之後口を廻りは書院方也下は後口分引如家

初備立ん此時小性組方急ぐ大教するは細
隙は押詰働之事は小性組方は細隙する
引取らるるは細隙は後口番引鹿を是を
之方は細隙は中寄は押詰働之事は
と引取小性組方也下は後口分入如家初備
立んは時大古番方家初通中寄は押
詰居る也

右に如く順々相寄りて何篇も進退之事

一白吹貫白布一徳之出ル
一御出馬之心得
一御細隙ニ居ル者之也取引取中寄ニ居ル者
之其終相居ル
一入御海白魔取寄之命
中寄ニ相居ル者御細隙ニ結寄取中寄
一御相居ル事

右ニ通御相居次第何篇ニ進退ニ事首
一白魔大輪ニ振ル取寄有ル事御細隙ニ
若ク也取引取中寄ニ居ル者之其終相居

此事

一御場海御相居ニ目筒ニ放ニ後ニ放ル御
有ル事百人組御持御先手御若ク候也
ツルハ打列率百姓聲ニ有ル事有ル御細
隙中寄ニ出居ル者引魔ニ最初ニ通也取
一御番取引御

按スルニ是レ合寄の事ニ下文ハ
此當日の事ニ付テ記スル事ナリ

一御番取一同馬取引魔然御頃今朝小屋

場分押出—以通之行列—高直書院方直性
組方此所—前と通—今新—道筋分河場
を歩行道通—又本末小屋場分八半時以
引直食事—以多—馬飼附支度以多—以内
還河相渡西支卿 甚古老若方直退散七七時
以相渡

大直番
組直書

◎嘉永元戊申年十月十六日

作勢守殿
主膳正殿

柳生播磨守
左近守左衛門
石谷珠之丞
川勝中勢
松平忠之丞

追駈騎馬組合分

一之組合鞭房握共白

氏月舟

戸田能登守

氏使番

戸川助次郎

仁成二郎八郎

氏小性組

跡部能登守組

春日守五郎

河田宗三郎

井上虎之允

梶川半左衛門

羽織赤

羽織紫

渡辺小膳

西丸氏小性組

大島甲斐守組

小幡又十郎

牧野清五郎

久保勘次郎

土方大次郎

角南内記

氏書院番

小笠原加賀守組

戸田谷次郎

羽織黒

奥津健之助

篠山彦十郎

令田惣八郎

保々藤助

大西番

瑞島内匠次郎

小宮山令次郎

加藤助七郎

保本軍次郎

羽織赤地黒紋

松平源十郎
長田謙之助

同

土岐丹波守次郎

村上彌一平

英濃部秩之助

玉虫力左郎

加賀英右衛門

伴達莊左衛門

羽織紺地赤紋

二十八人

二之組合鞭房握共赤

以使番

一色邦之輔

酒井織部

瀧川主殿

西小姓組

池田甲斐守組

山角儀之助

安部伊織

羽織赤白順々

石尾織部

村瀬平四郎

竹内謙之助

西丸西小姓組

秋友伊豆守組

堀八郎左衛門

小出権之助

平忠鐘之助

鈴木九郎右衛門

羽織黒

平定七之助

右書院番

大久保因幡守組

山崎岩吉郎

大屋良吉郎

松下大之丞

朝比奈集人

山本八十八

西丸右書院番

秋原田義次組

羽織黒

羽織白玉布交

大久保宗次郎

小宮山欽之郎

友惣孫次郎

川村周之進

駒井瑞之助

大庄番

稲葉兵部少輔組

松浦茂右衛門

中根主税

羽織赤地白紋

水野新之助

植村友近

富島猪之助

二十八人

三之組合鞭房握持黃

比使番

福垣秋之丞

土方八十郎

水野甲子三郎

比小性組

津田英徳子組

深津謙之助

天野民七郎

福房伴織

松平之税

岩佐席之助

羽織上下白中黒

西九比小性組

花房志摩守組

戸田庄右衛門

羽織 上白下黒

中山 勅之丞

羽太清 左衛門

松波 恒左衛門

河内 曾三郎

古書院番

室賀 兼作 守組

服部 半之丞

河野 四郎

曾我 又左衛門

羽織 紫淺黄布交

田村 仙左衛門
進 友金之丞

西丸 古書院番

酒井 肥前 守組

長谷川 平兵衛

園田 友左衛門

伊東 内藏 助

京極 雄左衛門

中川 監物

羽織 白赤布交

大田番

左山安藏子組

杉浦主計

朝日勝次郎

小林滋三郎

鈴木澤次郎

秋後岩三郎

羽織浅黄地朱紋

二十八人

四之組合鞭房握持組

古使番

細井宗左衛門

大久保外記

西九石小姓組

大田中務組

高山安左衛門

久津英又助

長山祐之助

柳原主計

大島積左郎

羽織浅黄

西九區書院番
秋田淡路守組

加々代衆之序

菅沼右邊

鈴木捷藏

前田八郎左衛門

小栗別左衛門

同

藤掛出羽守組

三枝貞五郎

羽織 白地赤乱星

京極左衛門

本多内苑助

船越兵庫

織田熊三郎

大庄番

大田紀伴守組

小笠原熊左衛門

西山新右衛門

勝 頭三郎

羽織 紫地白紋

片山 孫次郎

川井 豊之助

同

迎 後石見守組

赤井 善三郎

加茂 宮記之助

横山 茂次郎

武 後善之丞

横山 正左衛門

羽織 白地濃淺黄紋

ノ二十七人

惣ノ百十一人

右 遊 強 騎 馬 出 番 流 百 人 合 組 合 三 右 成 臣 自 身

以 使 番 世 話 引 致 以 手 履 右 心 得 中 合 之

注 致 以 事

一 鞭 房 之 後 之 麻 糸 成 在 本 綿 糸 成 在 太 糸 之

致 一 儘 之 色 分 以 得 之 宣 委 以 間 押 出 来 以 格

可 致 以 事

右ノ通寛政度小令以麻將ノ旨ノ以振合ニ
凡令セ取相相湊ナリ同中達ナリ以上

柳生播磨守

遠山半左衛門

石谷孫五郎

川勝中務

松平太右衛門

十月

五書院組留書由使番留書○按立るに追駈騎馬
此吉日に於て組合の長より於あり左より附立

○嘉永二己酉年

追駈騎馬一組合

五小姓組

跡部能光寺組

春日半五郎

河田宗三郎

井上虎之丞

梶川半左衛門

渡辺小膳

袴村之方
天作舟小

袴村之方
天作舟小

荒川左兵衛
棟系集人

二、組合

西丸古書院番

母屋内務院組

大久保宗法郎

小宮山次三郎

後尾尾法三郎

川村周之進

袴村之方
天作舟山

駒井瑞之助
桑村長義

四、組合

西丸古書院番

後尾出羽守組

三枝貞五郎

京極左膳門

本多内務助

北越兵庫

西丸古書院番
天作舟山

西尾氏
面書

○三月十五日廻狀

織田熊三郎
場 合次第

今日月並出仕自伊豫守登 城攻少處
強騎馬心得中合書一通正同自戶田能宅
相達以寫字別紙お廻り且又右國人相達
之報別紙お廻り此紙廻り之書此紙廻り之書

可作渡之存也

一因断伊豫守白紙不繪字面之枚正同自
石谷珠之丞相達以同字別紙お廻り

加茂伊豫守

関 播磨守

逸見甲斐守

三月十五日

別紙

追強騎馬心得中合

一此所は在鞍中の馬並能お立此不の外は
変る在鞍中留交は事

一馬張ゆる立居兼ゆる此不迫迫る輪系
等被ゆるを格別変る沖場内系廻
等被ゆるを不相成は事

一沖場入後 沖成迄を此間有は事故
人より休是る為下馬被ゆるを並
立其迫迫る可在は事

但腰辨當を此律成右に准は事

一猪床追かけは義一組合散るを成格中
麾より退込は事

但若馬退るは有ゆる跡は跡一
下中事

一駒場より出るとの事故追駈騎馬
引る取同身取使番を跡は附始終進退
被り得ると一跡は同身取使番を引る

一 此旨小令にて之を猪麻出の旨追放騎言の
此番流計追込の振着等及此等と有之
左此旨此使番打込追込の旨と可有之
事

一 兼而定之通追放騎馬之旨此旨此旨
之内此此之猪麻穿留此等之旨事
一 沖場海組合限の項にて系込の節前後
馬間之旨計行義能小屋引取之旨事

此等他法考要之條取行儀よく以事
此等考之可此中令事

別紙

追放騎馬之旨此旨此使番之旨
此旨之内此捨之籍之旨一旨交事

大正番組圖書
此書院組圖書

○ 嘉永二己酉年二月

小令此麻指替子姓名書

近騎馬

古書院番次

逸見甲斐守

同人組共次

早川十右衛門病室三台
代り

円谷平十郎

同人組

武拾貳人

古書院番次

関 播磨守

同人組共次

小倉新左衛門

同涉黄

同人組

武拾貳人

古書院番次

加茂伴祿守

同人組共次

小栗右膳

同人組

武拾貳人

古書院番次

坪内伴直守

同人組共次

今福伴藏

同人組

武拾貳人

同上涉黄下赤

同上白中黒

同黑白布交

中山組黄旗

近坂幸三守

同人組与次

深名傳右衛門

同人組

武拾貳人

原性組番頭

古波左衛門

同人組与次

鈴木弥次右衛門是痛三付

代り

市田右左衛門

同人組

武拾貳人

同白

赤行勢子

附注

西丸目付

松本十郎左衛門

大庄番頭

瑞島内道頭

同人組与次

逸見光三郎

根岸猪八郎

松前七左衛門

浅尾左卫門

同人組

三拾六人

同赤地黒旗

同赤地白紋

同人共力
 九人
 同人同心
 十六人
 大庄番頭
 稻葉兵部少輔
 同人組
 飯田大守
 都筑兵庫
 高樋源次郎
 下枝兵三郎
 同人組
 三拾六人

同紺地赤紋

同人共力
 九人
 同人同心
 十七人
 同
 古波丹波守
 同人組
 松原傳右衛門
 伴勢平五郎
 飯室次郎玄清
 吉野半助
 同人組
 三拾六人

同人等

九人

同人同心

十八人

同

遠山安藝守

同人組

内蔵甚左衛門

伊丹左衛門

大津勝左衛門

権柄律五郎

同人等

八人

同人同心

十九人

古書院番

逸見甲斐守組

十八人

同人等

八人

同人同心

十八人

西丸古書院番

秋原内膳

同人組

高橋甚左衛門

同人組

四十二人

同白黒布交

同涉英

同人与力

同人同心

西書院番

園播磨与組

同人与力

同人同心

西九西書院番

秋田淡路守

同人組与頭

万年弥一序

八人

十九人

三十人

八人

十八人

同英

同人組

同人与力

同人同心

西書院番

加友伴豫与組

同人与力

同人同心

原性組

古波卷与組

四十七人

十人

十七人

廿拾九人

八人

十八人

廿十五人

同上白中黒

同白

西九京性組番頭

大園豊後守

同人組与頭

松崎若十郎

同人組

河十河人

京性組

近後左衛門組

武拾八人

西九京小性組番頭

大島甲斐守

同人組与頭

小笠原合十郎

同人組

河拾八人

同涉英

同黒白布交

同紫

同上涉英下赤

同赤

追駈騎馬

西九京性組番頭

大園豊後守

同人組与頭

松崎若十郎

同人組

河十河人

京性組

近後左衛門組

武拾八人

西九京小性組番頭

大島甲斐守

同人組与頭

小笠原合十郎

同人組

河拾八人

京性組

坪内伴右衛門組

武拾八人

京性組番頭

跡部能定守

同人組与頭

竹川若玄清

同人組

河拾五人

附添

出使番

本多孫八郎

遊駈組合分
一、組合鞍房握皮白

同目付

戸田能宅守

古使番

戸川助次郎

仁本三郎八郎

原小性組

羽能宅守組

五人

西九原小性組

大高甲斐守組

五人

羽織赤

羽織紫

同黒

佐書院番

十芝系加賀守組

五人

大正番

堀内通次組

五人

同赤比黒紋

同

土波丹波守組

五人

同鉢地赤紋

二、組合鞍房握皮赤

古使番

一色邦之輔

酒井織部

澁川之殿

小姓組

池田甲斐守組

五人

同人組

四拾人

同人守力

九人

同人同心

十八人

大石番頭

大園紀伊守

同白赤段

同人組守力

加茂傳左衛門

河村之守

小野惣三郎

若林荒之助

同人組

三拾七人

同人守力

九人

同人同心

十六人

同

近後石見守

同法莫比朱紋

同人組五員

林百助

加茂半右衛門

上田謙次郎

右田新右衛門

同人組

三十六人

同人協力

九人

同人同心

十九人

附源
由後蕃

松平久之丞

同白地濃淡黄紋

正書院番頭

室賀英仙守

正儀分加々下

同人組五員

濃名源五郎

同人組

四拾三人

西丸京性組

秋後伴重守組

五人

正書院番

大久保因幡守組

五人

同淡黄布交

同黒

同白

同白羔布交

西九區書院番
廿夜月花院組

五人

大正番

福葉兵部少輔組

五人

同赤地白紋

三、組合鞆房松平黃

正使番

福垣新之丞

古方八十郎

水野甲子三郎

同上下白中羔

正小性組

津田管波守組

五人

西九區小性組

飛房志麻守組

五人

正書院番

室賀岩作守組

五人

西九區書院番

酒井肥前守組

五人

大正番

左近山安藝守組

五人

同白赤布交

同紫赤布交

羽織上白中羔

同赤黃地赤紋

四、組合鞆房権左衞

正使番

細井宗左衛門

大久保外記

西九郎小姓組

大目共之俊子組

五人

西九郎書院番

秋田漢路子組

五人

同涉黄

同黄



同

後徳出羽守組

五人

同白地赤乱墨

大目番

大目記伴子組

五人

同紫地白紋

同

近後石見守組

五人

同白地濃涉黄紋

涉書院組面書 ○以上 涉右之方騎馬并歩行勢子之番勅方之

○嘉永年度遊弋騎馬之場之同騎射中遊弋馬進退

之學ありとくに別帳より収む儀を以て取極一

